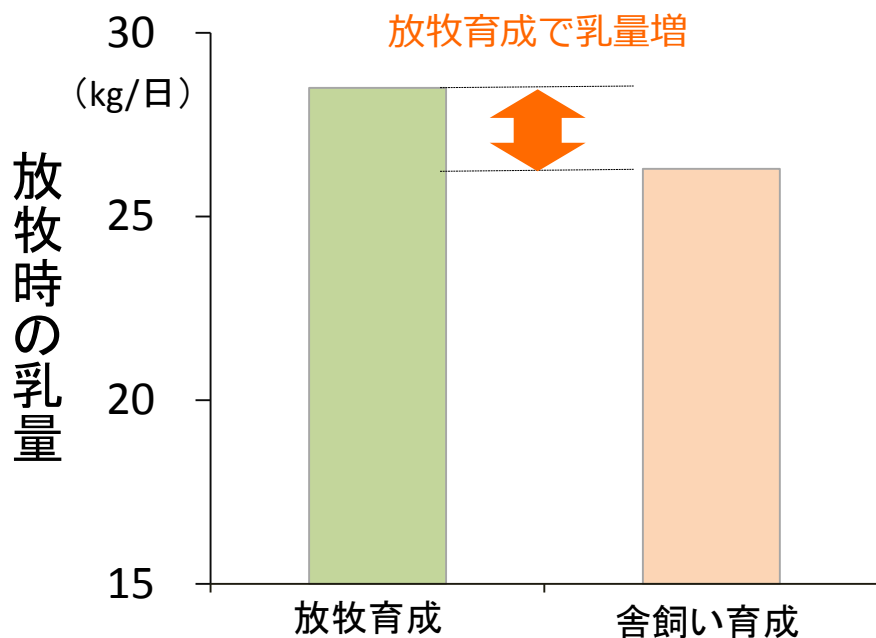


放牧育成により放牧牛乳の生産量が増える

目的と特徴

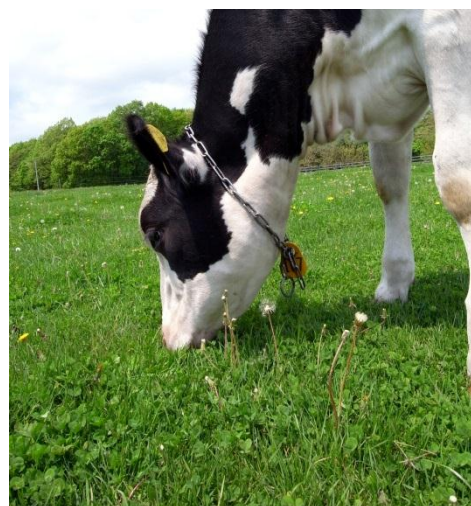
- ・放牧牛乳を効率的に生産するための育成方法を検討しました。
- ・育成時に6ヶ月齢から放牧を始め、放牧期間中の飼料は放牧草のみとします。



育成コスト(1頭あたり飼料費)

放牧育成 9.9万円
舎飼い育成 18.6万円

8.7万円削減



成果

- ・育成時に放牧を積極的に取り入れることで放牧牛乳の生産量が増加するとともに、育成コストが低減できます。
- ・放牧育成でも標準発育と同程度の生育ができます。

表1 育成時の放牧の有無が放牧時の乳生産性に及ぼす影響.

処 理	日乳量 kg	乳脂率 %	乳タンパク質 %	摂取量 (乾物 kg)				総摂取量体重比 %
				放牧草	グラスサイレージ	配合	合計	
放牧育成	28.5	3.7	3.1	17.9	2.9	3.1	23.9	4.27
舎飼い育成	26.3	4.0	3.1	16.8	3.1	3.1	23.0	3.98

初産牛を放牧育成5頭、舎飼い育成4頭供試。放牧育成は寒地型牧草地で2シーズン放牧。産乳性試験はメドウフェスク主体草地 (TDN:67%) で昼夜放牧 (放牧20時間/日) し、不足分をグラスサイレージ (TDN:62%) と配合飼料で補った。

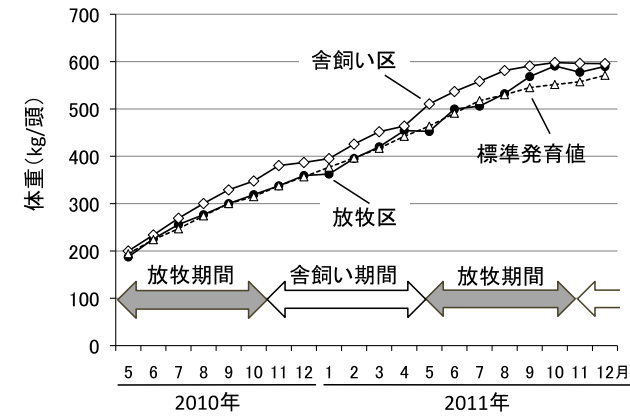


図1 育成期の体重の推移.

注) 放牧区は2シーズン放牧、舎飼い区は通年無放牧。標準発育値は日本飼養標準 (2006年版) による。放牧期間中は放牧草のみ給与。舎飼い期間は粗飼料多給。

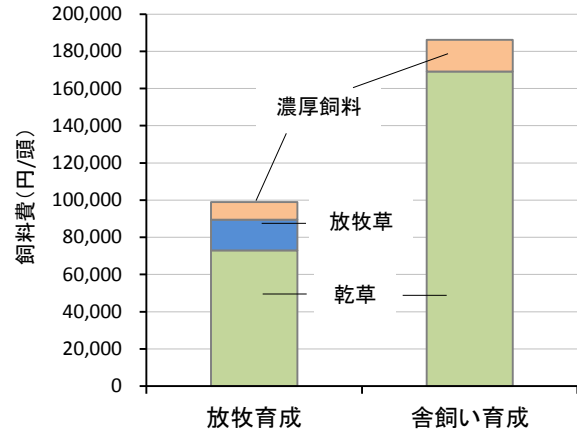


図2 育成時の飼料費.

注) 標準発育値 (日本飼養標準2006年版) を達成するように飼料設計したモデルによる結果。期間は生後2ヶ月齢から初産分娩直前の24ヶ月齢までとした。放牧育成は2シーズン放牧とした。

飼料単価 (円/乾物kg) は、濃厚飼料は50.0円とし、乾草および放牧草は農水省統計情報部、畜産物生産費報告 (平成21年) に基づき、各29.7円、5.1円とした。

対象作物・家畜、普及対象

- ・乳牛、全国

対象農家

- ・搾乳牛の放牧を取り入れている経営

必要な道具

- ・放牧地

その他

- ・北海道での結果であるため、その他の地域では地域性に配慮が必要です。